

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	292500030		
法人名	社会福祉法人貴望会		
事業所名	グループホーム第二みほの		
所在地 (電話番号)	〒039-3144 青森県上北郡野辺地町一ノ渡19-1 (電 話) 0175-64-1630		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 5日	評価確定日	平成 20年 1月 30日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 12月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(10月 20日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 81 歳	最低 73 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちびき病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にあり町の住民という実感を得る事ができる。下北道のそばであるにもかかわらず静かで、ホールも明るく窓の外では農作業する近隣者の姿が見え入居者の話題になっている。職員は利用者へ優しく声掛けしており理念に掲げてある『その人らしく心身すこやかに過ごせるように』を全員で共有し、支援できている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回評価につき該当せず
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 開設してまもなく一年が経過しようとするホームであり、試行錯誤の中で日々のケアに取り組みされており、今回初めて自己評価をして外部評価を受け、今後に活かしていくという前向きな姿勢である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市町村との連携は手続き等も含め定期的になされているが、推進会議は呼びかけ中であり、今後の取り組みに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 入居前の説明時点や入居後の面会の都度、意向や意見を聴き、対応できるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事や行楽で外出の機会を設けているが、近隣住民とは挨拶を交わす程度なので、今後は交流関係を深め、自由に出入りして頂けるような体制作りが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『一人一人の尊厳と個性を尊重して心身がすこやかに過ごして頂けるように、またその人らしい生きがいのある生活を送れるように援助していきます』をホーム独自の理念に掲げ、その人らしく生活することを目指して援助している。	○	今後は地域の中での生活も念頭に入れて更なる取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と事務所・ホールに理念が掲示されており、ケアの方向性を決める際も共有された理念に基づいて援助が行われている。状態変化の際も理念をもとにケアへ取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	外出時は挨拶を交わし、隣家の住民が度々遊びに來たりされている。地域貢献の面では、今後一斉掃除等への参加を考えており、そこから交流を深めたい意向がある。	○	地域活動への参加等を通じて地域住民の理解や馴染みの関係の構築、協力体制の確立ができるように今後の積極的な働きかけに期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての試みであり、評価を実施することの意義について職員へ説明し、自己評価を行っていた。	○	今後も全職員が前向きに取り組み、改善にむけて具体案の検討や実践につなげて頂きたい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	来年度から開催できるよう準備段階であり、協力病院・社協会長・家族・包括支援センター・町内会長に協力を求めている。	○	早期実現にむけて今後活かして頂きたい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口へ定期的に実情等を説明したり、相談できている。	○	更なるサービスの向上にむけ、市町村と共に運営の実態を共有しながら協働をつづけられることを期待したい。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に対象者がいる場合に、職員へ説明がなされ理解を深めようとしている。	○	今後も職員で学び、記録として残すなどして利用者・家族へ情報提供をし、支援を続けて頂きたい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務の中やカンファレンス時に説明がされており、職員も理解して日々の援助にあたっている。現在は管理者が注意を払い対応されているが、今後は職員も更に学ぶ機会を持つという意向がある。	○	マニュアルの作成等、全職員が虐待防止に取り組めるような体制作りに期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に訪問してパンフレットを活用して説明している。料金についても自己負担がある事や支払い方法を細かく説明し納得してもらうよう努め、希望があればホームの見学をしてもらうなど対応している。解約についてもいつでも可能である事を説明している。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や面会時に近況を報告している。金銭管理では小銭程度を自己管理している利用者もいるが、家族からの要望もありホームで預かり必要時に出納し、報告している。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今までに苦情はない。契約時に事業所の相談窓口は管理者であり、その他にも相談窓口があることを説明し、意見や相談があれば対応できるようにしている。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が、継続的にケアできるよう努められている。新しい職員が入る場合もきちんと指導されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは管理者と計画作成者の参加が多い現状だが、カンファレンス・申し送り等を利用して他職員に伝達している。職員の資格取得を積極的にすすめており、今期はケアマネジャーや介護福祉士受験者が5人いる。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、交流の機会をもっているのは管理者のみであるが、得た情報を共有し、支援に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前にも希望があれば職員が訪問し、条件や対応方法について本人や家族に説明している。パンフレットや話だけでは伝わらないところもあるのでホーム見学を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	色々な場面で経験豊かな利用者に教えてもらうことが多く、人生の先輩であるという考えを共有して支援できている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からは元気でいて楽しく生活してくれればいいとの要望が多いが、日常生活の中から本人の意向についての情報を得て取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常での気付きをカンファレンス時に話し合い、家族とも相談しながら作成できている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろんのこと、状態変化時にはその都度意見を出し合い計画の変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援を柔軟に実施している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の医療機関であれば、家族の便宜を図り受診介助を行ったり、健康面での相談をするなどしている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては家族・かかりつけ医と相談し、入院が必要になるまではホームで生活して頂けるよう援助されている。現時点ではホーム内での看取りは行われておらず、今後の検討課題として認識できている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	そばへ寄り添ってのさりげない声掛けや援助がされており、記録等も人目につかないよう事務所管理できている。利用者の衣服についても似ている物が多く自分の物だと勘違いする人には納得できるように説明しているが、納得できない場合も時間をおいて本人を傷つけないよう対応できおり、家族へも状況を説明し了解を得るようにしている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週2回はレクリエーションをするなど日課は決まっているが、本人の意志を尊重し個々に合わせたペースで動いている。昼食前に体操をする際にも発声や計算を取り入れて本人の自信を引き出している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特注の円形テーブルで職員と利用者が一緒にゆったり会話しながら食事している。介助もさりげなく行われ、片付けは共に行っている。準備段階でも共に行なうよう声かけはされているが、やりたいという希望が少ないのが現状である。	○	準備段階から一緒に行うことが出来るよう、意欲の引き出しや場面作りに期待したい。
26	54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めてあるが、毎日入浴できるようになっており、希望があれば違う曜日に入浴したり、毎日の入浴も可能である。夜間入浴は現在実施していないが、希望があれば職員の勤務変更をする等の体制ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除から始まり茶碗の片付け・洗濯畳み・掃除・草花の世話等を行っている。生きがいを見いだせるよう、色々な事を勧めているが利用者自体があまり積極的ではない。	○	声掛けにとどまらず、個々の経験や知恵を触発できるような取り組みと、利用者が率先してできる何かを見つけ出される事に期待する。
28	58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前での日なたぼっこや、ドライブ・行事へ出かけたり、個々の希望に合わせての外出支援ができています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルは無いが、ベッド柵も立ち上がり時の補助目的で使用しており、職員も拘束しない理由を認識して日々のケアをしている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時は玄関も開放していたが、現在は複数の利用者が玄関へ行かれる状況もあり、家族に説明して了解をとって日中もやむなく玄関を施錠している。	○	職員間に改善したいという思いもあるので、今後の取り組みに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練が計画されており、夏に訓練を実施した。地域への働きかけも重要である事は認識されているが、協力体制はまだできていない。	○	地域住民への働きかけを検討されているので早急に確立できるような取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日チェックし、月ごとに集計して個々の状態を把握され体調変化等に早く気付けるような取り組みがされている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが準備され、予防や対応の取り組みができている。職員も感染症予防の理解ができており、出勤と退勤時にうがい手洗いを励行している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを2ユニットで共有しているが、テレビの音も調節しており、同じ空間でもそれぞれ好みの場所で気のあった利用者同士で過ごされていた。日差しの増える午後はロールカーテンを利用し光の調節も行えている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団の位置を個々の希望に合わせて決めたり、室内の掛け時計も個々に合わせた位置に取り付けたりしている。使い慣れた物の持ち込みは、働きかけてもなかなか揃わない状況だが、掲示ボードを利用して写真や思い出の物を掲載し、日々それを見て思い出せるように工夫されている。		

 は、重点項目。